

令和7年度天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

ブランドをつくる！若武者の挑戦

○氏名又は名称 浪井丸天水産（代表 浪井 大喜）

○所在地 大分県佐伯市

○出品財 経営（漁業経営改善）

○受賞理由

・地域の概要

佐伯市蒲江は大分県の南東端に位置している。豊後水道の豊かな漁場が沖合に広がり、沿岸部には日本有数のリアス海岸が発達している。出品者の所在する蒲江（下入津）では、海面でブリやシマアジ、陸上でヒラメやトラフグ等の養殖が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

主たる業は、4kgサイズのハマチ生産に特化した小型ブリ養殖であり、生産物をブランド化して販売している。経営規模は小さいが、加工や流通業務にも人員を配置し、生産、加工、流通の一貫体制を構築している。現代表が事業承継し、本取組を開始した当初より本養殖ブリの出荷尾数は約4.3倍となり、売上金額は約3倍に増加。従業員構成は親族を中心とした11名であり、平均年齢が32歳と非常に若い。

・受賞者の特色

（1）流通改善の取組

- ① ターゲット層を定めて開拓した取引先からの要望を反映して、生産する魚のサイズ決定や、求められる身質・鮮度のための飼料開発、自社による加工への切り替えを行うなど、マーケットインの発想に基づく養殖業を実現している。
- ② 種苗の採捕から養殖、販売までのサプライチェーンを全て自社内で完結することで、諸段階で発生する経費や付加価値を的確に把握した上で販売先と取引することで、利益率の高い価格決定等に成功し、安定した収益性の高い経営体制を構築している。

（2）従業員の満足度向上

職場環境の充実に積極的に取り組んでおり、事務所には横になれる休憩スペースやコーヒーマーカー等を設置し、さらに子育て中の従業員のため、託児環境も整えている。また、敷地内には健康増進のためのジム、商品の試作やPR動画の撮影、集まって食事のできるキッチンスタジオを整備している。

・普及性と今後の発展方向

現時点では台湾へのチルド輸出が好調であり、ブランドの特色である鮮度を活かしたチルド輸出の拡大を模索している。今後、需要増に伴って生産の拡大が必要になれば、地域内の養殖業者と協力しながら、小型養殖ブリの生産を広げていく方針である。ニッチ需要に注目し、独自の市場を開拓していくという視点を持った本取組は、他の小規模養殖経営体においても参考になると十分に考えられる。